

コーポレートガバナンスにおける内部監査の役割

内部監査人協会（IIA）

訳：堺 咲子

内部監査財団（Internal Audit Foundation） 評議員
インフィニティコンサルティング 代表
CIA, CCSA, CFSA, CRMA, CPA (USA)

序

ガバナンスという言葉は、役員会議室や経営幹部が使う辞書に不可欠なものになってきたが、ガバナンスとは一体何かというと曖昧な場合がある。ガバナンスとは要するに、組織体の目標達成を支援するために設計されたプロセスと体制を融合したものである。これらのプロセスと体制は、組織体の目標達成能力に影響を及ぼすリスクのみならず、既知のリスクを軽減し未知のリスクを発見するための組織体の取り組みにも影響される。

ガバナンスにおける内部監査の役割は極めて重要である、とIIAは確信する。内部監査は、リスクマネジメント、インターナルコントロールおよびガバナンスの各プロセスの有効性と効率性に関する客観的なアシュアランスと洞察を提供する。

内部監査の役割

内部監査は、組織体の戦略、業務、財務およびコンプライアンスの目標達成に役立つために設計したガバナンス、リスクマネジメントおよびコントロールの各プロセスの有効性

を評価して報告することによって、アシュアランスを提供する。

内部監査は、その資源水準、能力および体制が組織体の戦略に沿っている場合、およびIIAの基準に従っている場合に、アシュアランスを提供するのに最適な状態になる。内部監査は、不当な威圧を受けていない場合に、アシュアランスの提供が最も良くできる。内部監査は、自らの独立性を維持することにより客観的に評価が実施でき、ガバナンスプロセス、リスクマネジメントおよびインターナルコントロールについて十分な情報に基づく偏りのない批評を経営者と取締役会に提供する。内部監査は、発見事項に基づいてプロセスを改善するための変更を推奨し、その実施をフォローアップする。

内部監査は、組織体内で独立して機能し、強力なガバナンスの重要性の深い理解、ビジネスシステムとプロセスの深い理解、および組織体の成功を支援するための原動力を持つ専門家によって実施される。

内部監査は、ガバナンスのプロセスと体制をより深く理解している経営者と取締役会のための促進役として、洞察を提供する。ガバナンス、リスクおよびコントロールに関する

内部監査の洞察は、組織体内で好ましい変化とイノベーションを引き起こす、とIIAは確信する。内部監査の洞察は、組織体の信頼を引き出し、十分な情報に基づいた適切な意思決定を可能にする。さらに、成功している内部監査は成熟し、傾向を把握して新たな課題が危機になる前に注意喚起することによって、組織体に**将来の展望**をもたらすことができる。

内部監査は、業務運営上の責任を負わない限り、ガバナンス、リスクマネジメントおよびコントロールの各プロセスの改善を目的としたアドバイザリー業務とコンサルティング業務を提供することによって、価値を付加することができる。これは、内部監査の客観性を維持し、利害の衝突を避けるために不可欠である。実施する監査や業務の種類を選択は、監査部門の権限、成熟度、目的および組織体のニーズと課題に基づいて行うべきである。

重要なポイント

ガバナンスにおける内部監査の役割は、極めて重要である。内部監査は、リスクマネジメント、インターナルコントロールおよびガバナンスの各プロセスの有効性と効率性に関する客観的なアシュアランスと洞察を提供する。

ガバナンス、リスクおよびコントロールに関する内部監査の洞察は、組織体内で好ましい変化とイノベーションを引き起こす。

内部監査への経営者と取締役会の強力な支援は、相互信頼に基づいて構築された人間関係と、内部監査部門長との頻繁かつ有意義な交流によって育まれる。

活力があり俊敏な内部監査機能は、健全なコーポレートガバナンスを支える不可欠な資源となることができる。

取締役会と監査委員会の役割

取締役会は、投資家、規制当局および経営者等の視点を考慮して、組織体内のガバナンスを特徴付ける体制とプロセスを確立する。取締役会は、自社の戦略、業務、財務およびコンプライアンスのリスクエクスポージャーを監督してモニターし、また、リスク選好、リスク許容度および戦略上の優先順位との整合性の設定において経営者と協力する。

上場企業のコーポレートガバナンス実務では、義務付けられている場合もあるが、**監査委員会**を使って公開企業の財務上および倫理上のインテグリティの監督を強化する。独立した取締役で構成された監査委員会は、内部監査と外部監査の作業計画と結果を独立して監督し、監査資源と資質のニーズを評価し、また、監査人と組織体との関係を調整することによって、監査部門の独立性、インテグリティおよび有効性を大幅に強化することができる。また、監査委員会は、監査結果が発表されること、および推奨された改善策や是正措置が対処または解決されることを確実にする。監査委員会は、非公開企業や公共部門の組織体においても同様の機能を果たすことができる。

理想的には、内部監査は、職務上は取締役会または監査委員会に直属し、部門運営上は最高経営者に直属すべきである。

内部監査への経営者と取締役会の強力な支援は、相互信頼に基づいて構築された人間関係および内部監査部門長との頻繁かつ有意義な交流によって育まれる、とIIAは確信する。

5つの質問

重要なガバナンスツールを最大限に活用するためには、優れたガバナンスにおける内部監査の役割をステークホルダーが理解することが不可欠である。

ステークホルダーが尋ねるべき5つの重要な質問は、次のとおりである。

1. 内部監査は、組織体のリスクに関する議論にどれだけ深く関わっているか？
2. 内部監査は、質の高い専門的なアシュアランス業務とアドバイザリー業務を提供するために、適切に位置付けられ資源が与えられているか？
3. 内部監査責任者は、取締役会や監査委員会委員長と自由に強固な関係を築くことができるか？
4. 取締役会や監査委員会は、内部監査が成功するための最善の条件を理解して支援しているか？
5. 経営者と取締役会は、内部監査部門を俊敏かつ革新的にするための取り組みを、どのように支援できるか？

するリスクベースの監査を通じて、コーポレートガバナンスを強化する。リスクが増大して一層複雑になるにつれて、内部監査の役割は、リスクガバナンス、カルチャーと行動、持続可能性、およびその他の非財務報告指標のような分野に拡大する可能性が高い。

組織体が新たなテクノロジー、地政学、サイバーセキュリティおよび破壊的なイノベーションによって生み出された数々のリスクの増大に対応するにつれて、活力があり俊敏な内部監査機能は、健全なコーポレートガバナンスを支える不可欠な資源となることができる。

リスクが増大して一層複雑になるにつれて、内部監査の役割は、リスクガバナンス、カルチャーと行動、持続可能性、およびその他の非財務報告指標のような分野に拡大する可能性が高い。

結び

内部監査は、組織体を成功に導くプロセスと体制についてアシュアランスと洞察を提供

著作権

本著作物の著作権はIIAにある。無断複写・複製・転載を禁じる。

2019年度内部監査人協会（IIA）国際コンファレンス （於：アナハイム・米国）開催予定

内部監査人協会（IIA）では、2019年度の国際コンファレンスを、米国カリフォルニア州アナハイムにおいて開催する予定です。2018年度の国際コンファレンスには、世界中から約3,000名の参加者がありました。

コンファレンスの詳細、最新情報につきましては、IIA国際本部のホームページをご参照ください。

テーマ：A Vibe All Its Own

日程：2019年7月7日（日）～10日（水）

会場：Anaheim Convention Center

IIA国際本部ホームページ：<https://ic.globaliia.org/>